

みんなでチャレンジ！今すぐできる 社会貢献 今すぐ誰にでも始められる“社会貢献”に注目！

vol.22 カタログギフトからの「寄附」

冠婚葬祭の折、みなさんも何かしらの形で「カタログギフト」をもらったことがあると思います。魅力ある商品の中から一つを選ぶのにきっと苦慮されていることと思いますが、みなさんは、これらのギフトの中に「チャリティ」のメニューを加えているものがあるをご存知ですか。

インテリアグッズやグルメといったメニューが並ぶカタログ全体から見ると、気に留めなければ見落としてしまうかもしれませんが、その内容は、それらカタログのグレードに応じた金額を、私た

ちの様なNPOへの寄附に充てるものとなっています。

送り手の気持ちのこもったギフトに、受け取った人の新たな思いを乗せて、より良き社会づくりへと善意をつなげているこの仕組みもまた、私たちの身近なところにある社会貢献の一つの形であると言えるでしょう。カタログがお手元にある方は、ぜひ一度ご覧になってください。(花屋)



NPO道具箱 NPOを応援する仕組みや情報をご紹介します

vol.24 面白い会議の進め方

みなさんは「面白い会議」を経験したことはありますか？あるIT企業のサイトに私たちの会議でも意識すべきだなと感じたポイントがありましたのでご紹介します。

- ・固定した職業上の役割や経験的な観点から離れるために理想の未来から現在を見る
- ・グループに分かれ言葉に出して絵を描きながらアイデアを出し合う
- ・ひらめきやジョークや笑いが許される空間をつくる

- ・自分が賛成しない理由をはっきり伝える
- ・話を遮るべきタイミングを判断する
- ・優先順位を正確に定義する
- ・発表者一人一人の持ち時間を決める
- ・どのような意見、アイデアもまずは出して批判を後回しにする

会議の進め方や進行はもちろん大事ですが、参加者の疎通や交流も大事ですね。全部は無理でもどれか一つから実践してみませんか。(那須)

センター職員のいちおし！ スタッフが気になることやおすすめしたいことなどをご紹介します

vol.26 これからの成人式

14日は成人の日ということで、山形市は、13日に成人式が行われました。今年成人された皆様、おめでとうございます。

全国的にも、成人式は成人の日に行うようですが、県内でも冬ではなく、春や夏のお盆の時期に行う地域もあるようです。私も大学生のとき、お盆に地元へ帰って成人式をする、という友人もいて、冬にしないところもあるのか、と驚いた記憶があります。特に東北地方や新潟県は積雪量も多いため、各地域で人が集まりやすい時期に日程をずらして行っているようです。

これから行われる成人式で議論されているのは、

今年の6月の民法改正で2022年4月から成人年齢が18歳となるため、成人式と大学受験が重なる、切り替わりの初年度は18～20歳の人が該当するため、会場の確保がこれまでより困難となる、という問題です。このことに対して、成人式の日をずらしてできないかという案が検討されているようです。

成人式他には、クレジットカードやローンの契約、国家資格が取れる年齢の変更など、これまでの制度から変わる部分も多いため、今後の政策についても気になるところです。(中村)



編集後記 今年はいのしし年ですね。「猪も七代続けば家になる」という言葉のように、猪も人に飼われて七代ともなれば豚になる、つまり長い年月には変化や進歩があるということです。センターも前に向かって歩みを続けます。(有川)

山形市市民活動支援センター利用のご案内

- ・開館時間 / 9時半～22時
- ・休館日 / 月曜日、祝日、月曜日が祝日のときは火曜日、年末年始
- ★印刷と相談の方は1団体2名、2時間までの駐車券補助があります。(霞城セントラルパーキング・山形駅東口交通センター駐車場をご利用ください)

山形市市民活動支援センターだより とぴあす 発行責任者：所長 齋藤 和人

山形市の市民活動の情報と支援センターからのお知らせをお届けする情報紙

とぴあす

2019年1月13日発行

2018 やまがたNPOウィーク 開催しました



平成30年12月1日(土)から7日(金)まで、2018やまがたNPOウィークを開催しました。写真はNPO博の様子です。山形駅自由通路アピカをお借りして、市民活動やNPOに関する様々な情報をパネル展示しました。

今号の目次

- ・2018やまがたNPOウィーク 開催しました
- ・山形市の市民活動のご紹介
- ・企業/地域活動コーナー vol.9
- ・みんなでチャレンジ！今すぐできる社会貢献 vol.22
- ・NPO道具箱 vol.24
- ・センター職員のいちおし！ vol.26



vol.43

山形市市民活動支援センター

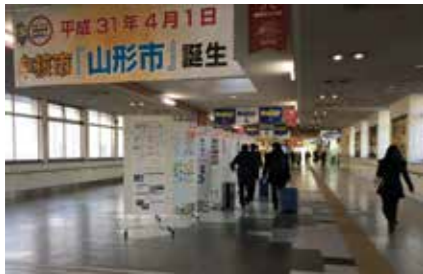
〒990-8580 山形市城南町1丁目1-1霞城セントラル22・23階

電話：023-647-2260 F A X：023-647-2261
メール：center@yamagata-npo.jp

2018やまがたNPOウィーク ～NPO法施行から20年～

特定非営利活動促進法（NPO法）が施行されて、昨年の12月で20年を迎えました。山形市市民活動支援センターでは法施行日の12月1日から7日までを、2018やまがたNPOウィークと位置づけ、色々なイベントや講座を開催して、市民の皆さんが市民活動やNPO活動に関心を持っていただく機会を提供し、また活動をしている団体の活動発表や交流の機会を提供しました。

NPO博



平成30年12月1日（土）から7日（金）まで、山形駅自由通路アピカをお借りして、市民活動やNPOに関する様々な情報を10枚のパネルに展示しました。山形市市民活動支援センターが発行した機関紙や情報紙、取材記事などの展示を通して、NPO活動に一般市民の皆さんが関心を持っていただけるような機会を提供しました。山形市市民活動支援センターに利用登録している団体の一覧は、活動の種類ごとに見やすいように色分けして展示し、センターで開催される予定の講座のポスターや、山形

市や山形県からの情報提供コーナーも充実した内容で、見ごたえのあるものになったのではないかと思います。

センターのメールマガジンにご寄稿いただいている団体のコラムの特集は、読み応えのある内容で、たまたま山形駅の近くを通りかかって、このNPO博の展示を見つけ、わざわざセンターに立ち寄ってくださった方もいました。

子ども食堂って？

平成30年12月1日（土）に開催した「子ども食堂って？」は、20代から60代まで幅広い年代の方々、27人に参加いただきました。参加の主な理由は、「子ども食堂に関心があった」、「山形でもやっていることがわかったので聞いてみようと思った」、「子どもが小さい時にこのような子ども食堂があればよかった」、「県内の子ども食堂の現状を知りたかった」と様々でした。

山形市内とその近郊の5つの団体が、子ども食堂の活動の様子を発表しました。参加された方たちは熱心にメモを取り、部屋の片隅には各団体のリーフレットやチラシが並べられました。その後の質問や交流の時間は、各グループごとに活発な話し合いが行われました。資金はどうしているのか、スタッフはどんな人がやっているのか、どんな子どもが何人くらい来るのか、課題や成果はどんな事が挙げられるかなど、ワイワイ話しながら進みました。

参加されたみなさんからは、「他の団体の運営の様子がわかってよかった」、「子ども食堂に関わっているボランティアの学生さんの話も聞いてみたい」、「子ども食堂の立ち上げに関する講座があるといい」、「2回目を企画してほしい」、「今日は参加していない他の団体の様子も聞いてみたい」などの感想が寄せられました。

経済的な貧困ばかりではなく、経験やつながりの貧困も含めた子どもの貧困が、山形でも地域課題として捉えられる中、その課題解決のための一歩を、市民活動というツールを使って取り組める可能性を感じた時間になりました。



つぶやきホッとサロン & NPO勉強会

定期的にセンターで開催している「つぶやきホッとサロン」と「NPO勉強会」も今回はNPOウィークの一環という位置づけで開催しました。「つぶやきホッとサロン」は、竜山川「花見ライン」創生プロジェクトの2名の方をゲストにお迎えし、活動に至った経緯や団体の運営などお話をいただき、参加された方々は興味深げに聴いておられました。

「NPO勉強会」はざっくばらんな雰囲気の中で、ワークショップ形式で参加者が知りたいことにフォーカスしながら進めていきました。



山形市の市民活動のご紹介

山形市市民活動支援センター連絡協議会 第11回やまがた市民活動まつりの様子 平成30年12月15日（土）

2018年12月15日、霞城セントラル1階アトリウムで山形市市民活動支援センター連絡協議会が主催し、山形市と山形市市民活動支援センターが共催する「第11回やまがた市民活動まつり」が開催されました。「やまがた市民活動まつり」は、山形市におけるNPOや市民活動団体の相互交流と市民への周知の場として、年に1回開催され、今年で11回目を迎えました。

今年は例年と違い12月の開催ということで、アトリウムでは大きなクリスマスツリーが設置されており、運営に協力していただいた山形商業高等学校の生徒さんたちもサンタの帽子をかぶっているなど、クリスマスの雰囲気の中での開催となりました。福祉や環境、教育など様々な分野のNPO団体が参加し、各団体の展示や販売、ワークショップのブースがあり、ステージでは団体によるダンスや楽器の演奏、紙芝居の発表などがありました。会場ではブースを回るスタンプラリーも実施され、初めての参加でも団体の方と接しやすい仕組みになっていました。



参加された団体の方々は、「同じ分野の団体と接することは多いが、このように違う分野の団体と活動することができるのがとてもいいと思った。」「このようなイベントに参加して知名度が上がるのは嬉しい。」「発表をした方は、「普段と違う環境でのステージ発表がとても楽しく、とてもワクワクした。」と話していました。このような団体や市民の交流の場としての取り組みはとても有意義なものだと感じました。（後藤）

■お問い合わせ先 山形市市民活動支援センター連絡協議会 電話：647-2260

企業／地域活動コーナー vol.9

株式会社蔵王サプライズ 大沼会長に聞く～支えてくれた地域とともに～

（株）蔵王サプライズの大沼会長に、地域活動・社会貢献活動についての具体的な取り組みや考え方についてお聞きしてきました。

今年度、「（株）蔵王サプライズ55周年青少年育成ファンド」として山形市のコミュニティファンドに、「（株）蔵王サプライズ55周年「食」から築く子どもの健全育成支援事業」として山形県社会貢献基金に寄付をされていますので、この寄付に込められた想いについてお話をお聞きしました。これら2件の寄付は単なる周年記念事業としてではなく、様々な感謝の想いを具現化したひとつの形だといった主旨のお話をされ、根底にあるのが「従業員やお客様そして地域の支えや応援があって事業が成り立っている」という考えであるとお話されていました。これまでも社会貢献のひとつの形として寄付をされてきているそうで、大沼会長自ら活動現場を見学し、活動団体の代表と話をしして支援が必要と思われた場合には直接寄付をされてきたとのこと。最近では子ども食堂への食材提供を目的として仙台で活動するNPO法人や、引きこもりや不登校の若者支援を行っている米沢のNPO法人などへの実績があるそうです。「これからの地域を担う若者が食べるものに困る・笑顔が無いのは問題であり地域が何とかしなければならない」との思いから直接寄付されたとのことでした。

次に、社会貢献活動や地域活動に対する企業としての考えをお聞きしました。「高齢化の社会だからこそ若者の育成に目を向けるべきで、人の助けを受け入れやすい地域などの環境づくりが大事と考えている。そして、地域づくり・国づくりの根本は若者の笑顔であり食である。そしてそれらは地域や国の財産であるから、地域やおとなが支えなければならない。」と考えているとのこと。寄付という形だけではなく依頼があれば様々なマネジメント支援など無形の支援も惜しまないとのことでした。

今回お話をお聞きして、多くの方が実績として認識できるコミュニティファンドや社会貢献基金への寄付と、大沼会長自らが足を運び活動を確かしたうえで支援するという、我々の多くがその実績を認識することができないかもしれない活動を企業としてされていることを理解することができました。最後にまとめとして、「環境の変化に合わせ自らも変わり環境に合った企業であり続けたい、そして、世の中のトレンドをどう捉え企業・スタッフ・利用者をどうマネジメントするかを考え、そのことに存在価値を求めたい。」と話されました。

貴重なお時間を割いていただきました大沼会長、また、同席いただきました金子常務ありがとうございました。（那須）

お話をお伺いした（株）蔵王サプライズ 大沼会長 ▲

